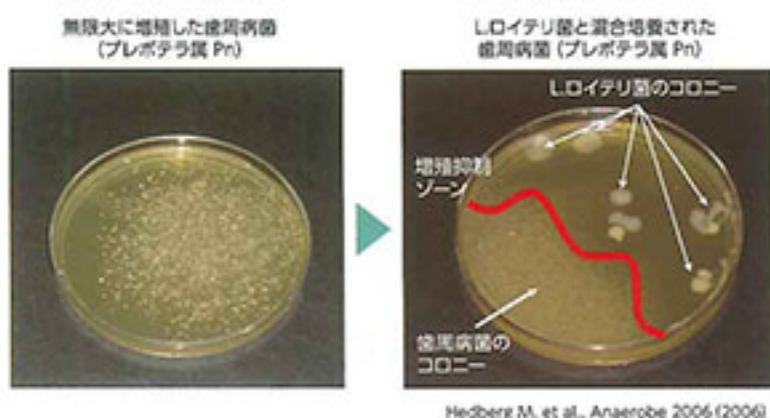


# L.ロイテリ菌の代表的な研究成果報告

## I. 口腔内領域での研究成果報告

### 報告 1 歯周病菌の発育抑制

- ◆ ポルフィロモナス・ジンジバリス(Pg)
- ◆ プレボテラ・ニグレセンス(Pn)
- ◆ プレボテラ・インターメディア(Pi)
- ◆ フソバクテリウム・ヌクレアタム(Fn)
- ◆ アグレガチバクター・アクチノマイセテムスコミタス(Aa)



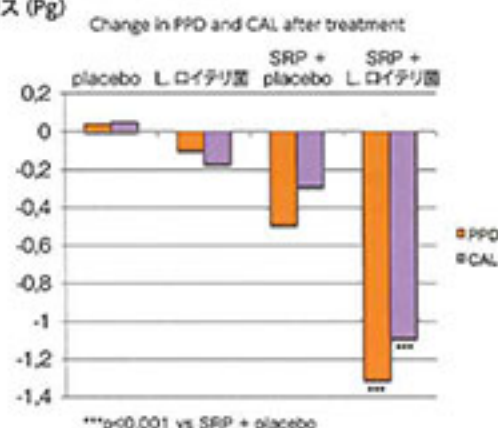
Hedberg M. et al. Anaerobe 2006 (2006)

### 報告 2 SRPとL.ロイテリ菌

SRPを活用することにより研究成果の向上を確認。

- ◆ 被験者数30名
- ◆ プラセボ対照、二重盲検、ランダム化試験を実施。(42日間)
- ◆ L.ロイテリ菌とSRPの活用で歯周病とプラークの著しい改善を確認。
- ◆ SRP活用でもL.ロイテリ菌単独でも
  - ・アグレガチバクター・アクチノマイセテムスコミタス (Aa)
  - ・ポルフィロモナス・ジンジバリス (Pg)
  - ・プレボテラ・インターメディア (Pi) を90%抑制
- ◆ SRPだけの治療と比較してL.ロイテリ菌摂取によりPPD (p<0.001) 及びCAL (p<0.001) の研究成果が向上することを確認。

Adapted from table 2 in Effect of the probiotic Lactobacilli reuteri (Phodentil) in the management of periodontal disease: preliminary randomized clinical trial. Vivekananda et al. J Oral Microbiol 2010, 2: 5344-DOE 10.3402/jom.v2i0.5344

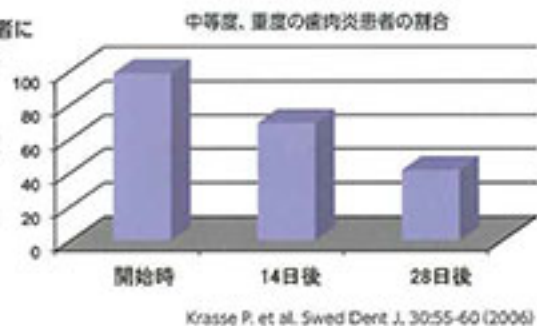


\*\*\*p<0.001 vs SRP + placebo

### 報告 3 中等度・重度の歯肉炎を緩和

予防や抑制だけでなく、緩和作用も確認。

中等度・重度の歯肉炎患者に対するプラセボ対照試験  
L.ロイテリ菌は有意に症状軽減させる。  
14日目で中等度、重度の患者数は30%減少。  
28日目では58%の減少。



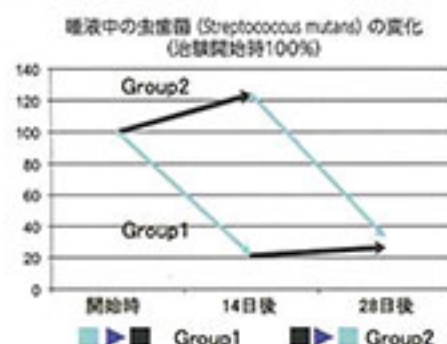
Krasse P. et al. Swed Dent J. 30:55-60 (2006)

### 報告 4 虫歯菌(ミュータンス菌)の発育抑制

L.ロイテリ菌は虫歯の予防・抑制にも効果を発揮し、摂取後一定期間が経過しても効果が継続することを確認。

広島大学歯学部において40名の歯科衛生士を対象。

- ◆ Group 1 (20名)
  - 【最初の14日間】L.ロイテリ菌入りヨーグルトを摂取
  - 【その後の14日間】プラセボヨーグルトを摂取
- ◆ Group 2 (20名)
  - 【最初の14日間】プラセボヨーグルトを摂取
  - 【その後の14日間】L.ロイテリ菌入りヨーグルトを摂取



Nikawa H. et al. Int J Food Microbiol 95:219-223 (2004)

### 報告 5 歯垢(プラーク)形成の抑制

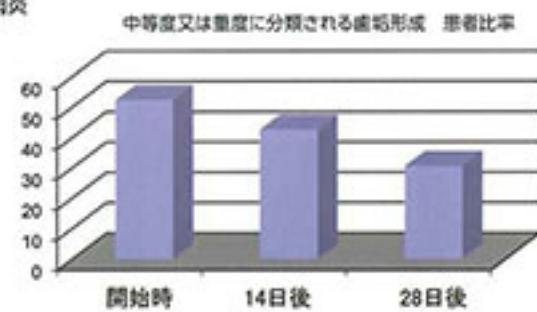
L.ロイテリ菌により歯垢(プラーク)が抑制され、摂取後一定期間が経過しても効果が継続することを確認。

59名の中等度・重度歯肉炎患者対象

無作為抽出41名にL.ロイテリ菌を摂取、18名にプラセボ摂取(14日間)。

L.ロイテリ菌摂取グループは歯垢形成が有意に減少。

その効果は、その後14日間継続した。



Krasse P. et al. Swed Dent J. 30:55-60 (2006)

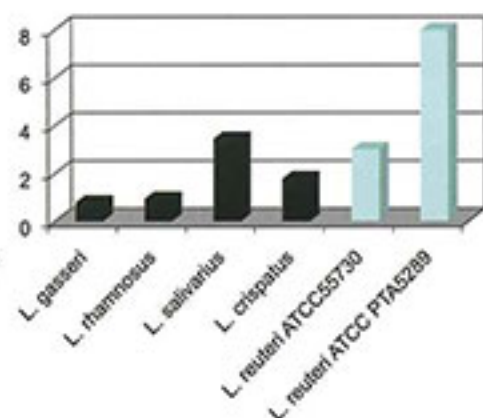
### 報告 6 口腔内粘膜への高い付着能力

ヒト口腔内粘膜への高い付着能力を確認。ヒト由来のプロバイオティクスだからできること。

口腔に対する有益性を謳うプロバイオティクスは、口腔内粘膜への付着が有効である。

L.ロイテリ菌の2種の菌株は双方共に口腔内粘膜への高い付着性を示した。

ヒト口腔内から分離されたL.ロイテリ ATCC PTA 5289株は、他の有益菌と比較して高い付着性を示した。



Roos et al. Unpublished (2006)